

昭和辛酉年一月十一日

スチエワード砲台現状報告

スチエワード砲台長

海軍少尉原田国市

先任參謀
 昭和二十年三月二十九日
 軍醫長

昭和二十年三月二十九日

庶務主任

軍醫長

各隊（部、所）長殿

性病豫防ニ關スル件通知

ク慰安所開設セララルニ就テハ性病患者發生ノ絶無ヲ期シ
 左記實施相成度

記

一 性病豫防講話（別紙参照）

二 性病豫防揭示教育（別紙揭示ノコト「ポスター」作製中）

三 「サツク」及消毒「クリーム」ノ交付

外出員ニ對シ慰安券ヲ交付スル場合ハ同時ニ「サツク」及消毒「クリーム」各一個宛交
 付シ之ガ使用ヲ勵行セシメラレ度（「クリーム」容器「サツク」ハ業者者側ヲシテ回收セム）

四 早期需診

慰安所利用後局所ニ異狀アルモノハ早期ニ需診セシメラレ度（別紙添付）

（終）

性病に就て

性病には

淋病・梅毒・軟性下疳（横痃）等がある

▽淋病

急性に感染染後二三日間尿道から膿液を出して尿道の終端に激しい痛みがある膿は次第に多くなり、疼痛も益々強くなった。来る

此の時期に受療すると意外に早く全愈するが受診を怠ると、不養生をすれば遂には慢性に成るとして一生苦しむ事となる

慢性症尿道の外膀胱・腎臓等に及ぶ或は更に男子は精巣・睪丸等も侵され、子供が生まれる事もある

淋病が眼に侵入すると膿漏眼（風眼）となる事もある。又淋病が尿管から出てくる事もある。此の病は多分体内に遺つてゐる

何時でも他人に傳染する類な危険なものである

其の感染経路

主として不潔な性交によつて傳染する等の外病苦のついた指先、手拭、禪、腰巻、下着、寝具等からも感染する

▽梅毒

先天梅毒 親の血液の中を梅毒を受けて生れて来たもの
後天梅毒 無垢の健康体が他から梅毒を受けて發病するもの
後天梅毒 〇の二つがある

第一期 性交後二―三週間位で亀頭冠溝部に瘡が出来る
堅い横痃が出来る

第二期 第二期が一―二年間皮膚に色々な発疹が出来る
頭髪や眉毛が抜けてつむじが盛り上がる

第三期 梅毒が段々内臓を侵し、骨がらみとなつて自界が破れたり
頭は元気がないりする

第四期 受毒後十年以上も経つて脳や脊髄を侵して遂には不治の
精神病者や脊髄病(ふし)になる

先天梅毒 親ばかりでなく親の因縁が子に報ひ子供に傳染して
流産、死産の原因となり又生れた子供は多量の病弱で身体も
精神も満足でなく成長しても女不具、瘡癩、病弱者になる
等累を可愛ひ、子孫に遺毒を恐るし、病氣である

其の感染経路

主として生殖器からの感染するが接吻、授乳、指先、食器、煙草管等から
でも傳染する事がある

▽軟性下疳

性交後二―四日で局部に毛切れ、又硬皮の瘡が出来それが潰れて
段々大きく深くなる又梅毒と混合感染したり横痃がふさがる
事もある

。其の感染経路
梅毒に同じ

▽横痃

股のつけ根の所が次第に腫れて来るもので致性下疳の初期に多く
起り淋病でも時々出来事がある事
梅毒から来たものは堅い皮で痛み他膿も少ないが致性下疳
から来たものは痛みがあり紅く腫れて他膿する

▽性病熱防法

- (一)上陸時は必ず「クリーム」と「コントール」(サック)を携行し事
- (二)性交時は「コントール」(サック)を使用する事
- (三)次で消毒「クリーム」の1/3を尿道口へ押し込み残りを外側全面に塗り
氷の放尿時まで水紙で包

(三)性交後は必ず放尿する事(手指で龜頭を軽く握り腹圧を上げて
と放尿ス)

(四)次で消毒水で洗滌する事(陰茎、外側を良く洗ひ尿道を洗滌ス)

(五)次で消毒「クリーム」の1/3を尿道口へ押し込み残り1/3を
外側全面に塗り次の放尿まで水紙で包んで置く事

(六)尿道からの膿が出たり瘡が出来たり直に専科診する事

右の注意を確實に実行すれば大体安全であるが必ずしも
100%懼病しないとは云えない

▽絶対完全なる豫防法

君子危きに近よらず